平成30年8月3日
国際コンテナ戦略港湾政策推進委員会
（第9回） 資料2－2

京浜港における
港湾運営会社の取り組み状況

2018年8月3日

YKIP
Yokohama Kawasaki
International Port corporaton

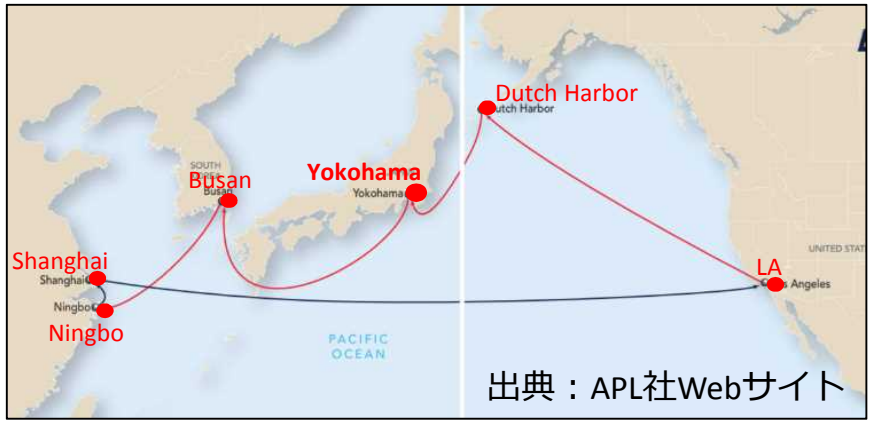
◇基幹航路等の維持・拡大

APLの新規北米西岸航路　8月より寄港開始！

北米からの貨物量増加に伴い、これまで運航していた北米西岸航路EX1を「EX1」と「EXX」の２サービス体制へ。

→APL運航の北米航路数が週１便から週2便に増加！

【EXX寄港地】



出典：APL社Webサイト

2017年

【サービス名】
EX１
【寄港地】
青島-上海-釜山-LA-オークランド-ダッチハーバー-横浜-釜山-那覇
【投入船舶】
5,000TEU級

2018年8月～

【サービス名】
EX１
【寄港地】
LA-オークランド-横浜-那覇-釜山-青島-上海-釜山-LA
【投入船舶】
7,800TEU級（大型化）

【サービス名】
EXX
【寄港地】
LA-ダッチハーバー-横浜-釜山-寧波-上海-LA
【投入船舶】
5,000TEU級

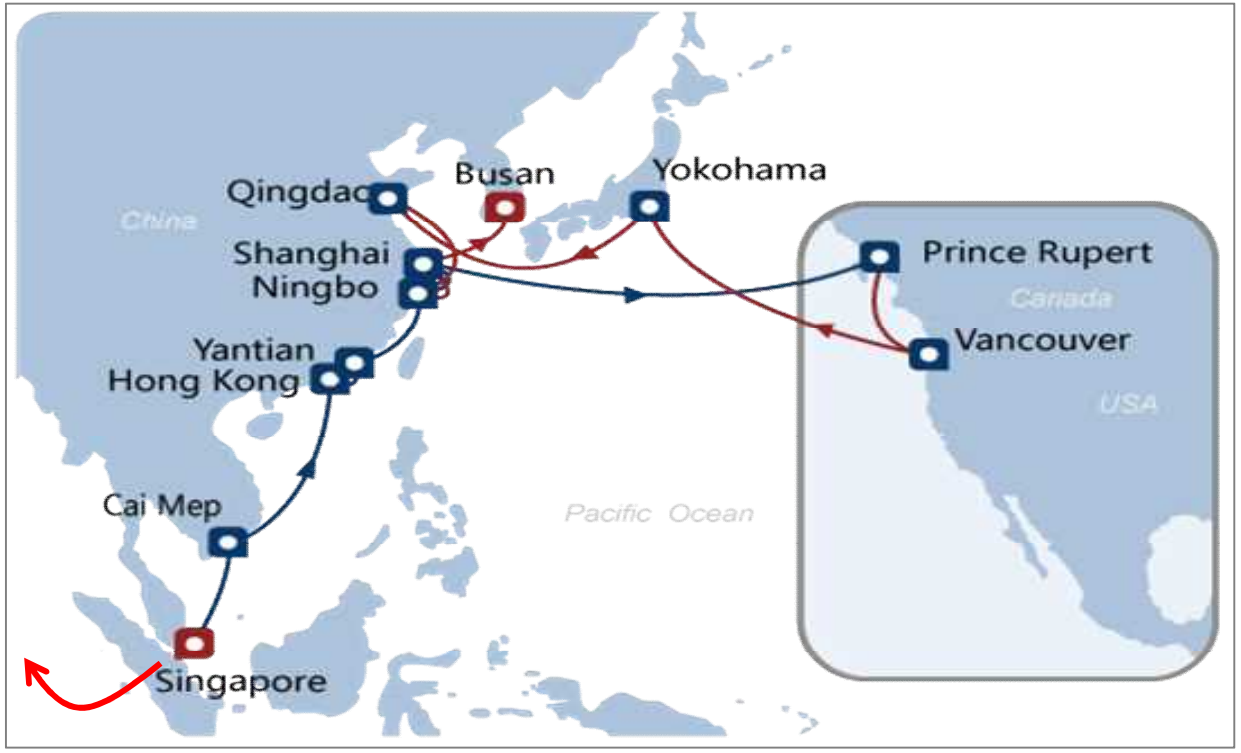
◇基幹航路等の維持・拡大

COSCOの北米西岸航路 継続寄港！　さらに延伸、大型化！

昨年寄港を開始したCOSCOの北米航路「CPNW」が、継続的に寄港中。
さらに寄港地を中東地域まで延伸し、投入船舶も大型化！

【寄港地】
プリンスパルート-バンクーバー--横浜-上海-寧波-南沙-シンガポール-ジュベルアリ-ハリファ- ダンマン-シンガポール

【投入船舶】
8,500TEU型→10,000TEU型へ



中東へ延伸

出典：COSCO社Webサイト

◇基幹航路等の維持・拡大

南米航路がさらに充実！　航路数の増加、船舶大型化！

航路改編に伴い、寄港する南米航路数が増加！

航路改編により
寄港航路数が
3航路→4航路へ！

2017年	2018年～
HAPAG/APL/CMA	HAPAG/ONE
	APL/CMA
Maersk	Maersk
Maersk	Maersk

APL / CMA CGMが運航する南米航路の投入船舶が大型化！

【投入船舶】
9,000TEU型→11,000TEU型へ

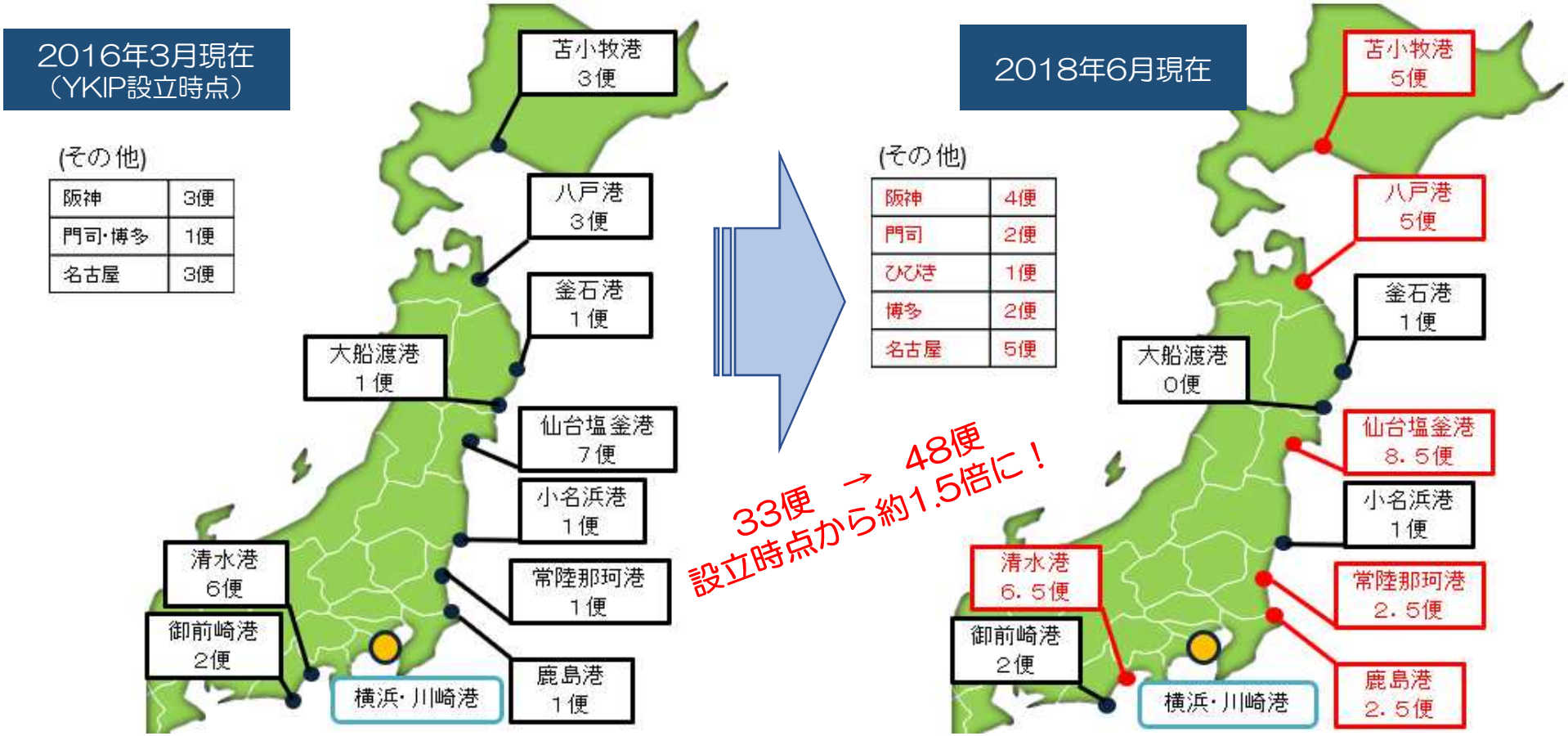
写真：横浜市港湾局提供

【船舶概要】

船名	CMA CGM HYDRA
コンテナ積載量	11,040TEU
総トン数	128,600 G／T
全長	347.2m
全幅	45.2m

◇ 国際フィーダー航路網の拡充

東日本の地方港を発着する貨物のうち、釜山港に流出している貨物を主なターゲットとして国際フィーダー航路網の拡充を促進。**週３３便⇒週４８便**へ増便！



～横浜港の内貿貨物量～

国際フィーダー航路網の拡充により、横浜港の内貿貨物量は急増！

内貿貨物量【2017.1-2017.12】　**305,688 TEU**　前年同期比　**118%**

§1　集貨の取組状況

◇ 川崎港のコンテナ航路数増加

中国・東南アジアなどの航路数、さらに拡充！

＜2018年の新規寄港＞

【2月】TCLC　中国航路 （寄港地：南京・常州・太倉・舟山 等）
【4月】SITC／KMTC　タイ航路（寄港地：バンコク・レムチャバン・ホーチミン 等）
　　WAN HAI／INTERASIA　中国・東南アジア航路（寄港地：シンガポール・ポートケラン・カイメップ 等）
【6月】SITC　フィリピン航路（寄港地：カガヤンデオロ・セブ・上海 等）

◇ コンテナ取扱量の増加

継続的な集貨への取組により、横浜・川崎港のコンテナ取扱量 増加！

横浜・川崎港のコンテナ貨物取扱量（単位：万TEU）

	外貿	内貿	合計
2016年	260.4	28.7	289.2
2017年	271.9	33.6	305.5
前年比	104%	116%	105%

外貿・内貿・合計
いずれも前年比UP！

横浜港の国際トランシップ貨物量 （単位：万TEU）

	合計
2016年	4.1
2017年	11.3
前年比	275%

前年比
大幅UP！

◇ コンテナターミナルの機能強化

船会社によるアライアンスの再編やコンテナ船の大型化に対応した大水深高規格コンテナターミナルの整備推進とともに、既存施設の機能強化を図る再整備を実施

【大水深高規格ＣＴの整備】

コンテナ船の超大型化に対応した
大水深岸壁を有するターミナルの整備

◆南本牧MC-4コンテナターミナル整備
2019年度供用開始予定

◆新本牧S-１コンテナターミナル整備計画検討
国・市において、2016年度より環境影響評価手続きに着手。2018年度は準備書を作成。

【既存ＣＴの機能更新・改良】

荷役機械の高規格化
老朽化等に伴うCTの機能更新＆改良整備

◆本牧D-１コンテナターミナル再整備
2018年度供用開始予定

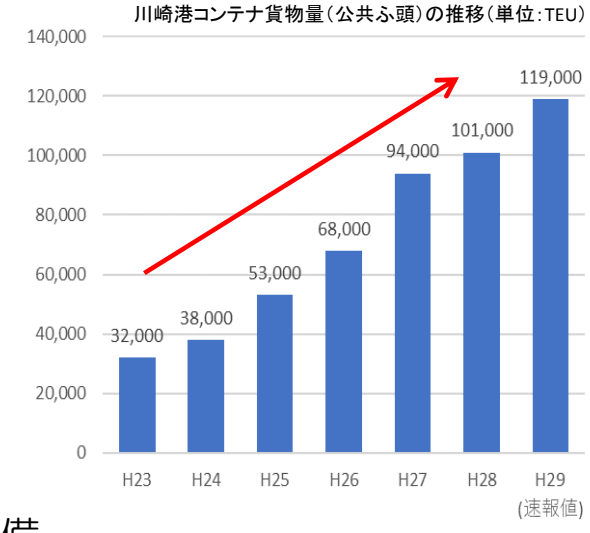
§２　競争力強化の取組状況

【東扇島ＣＴの整備】

川崎港コンテナターミナルは、2012年度以降、貨物取扱量が順調に増加している。増加する貨物に対応するため、荷さばき地等の整備を計画的に実施

◆コンテナ貨物量の推移

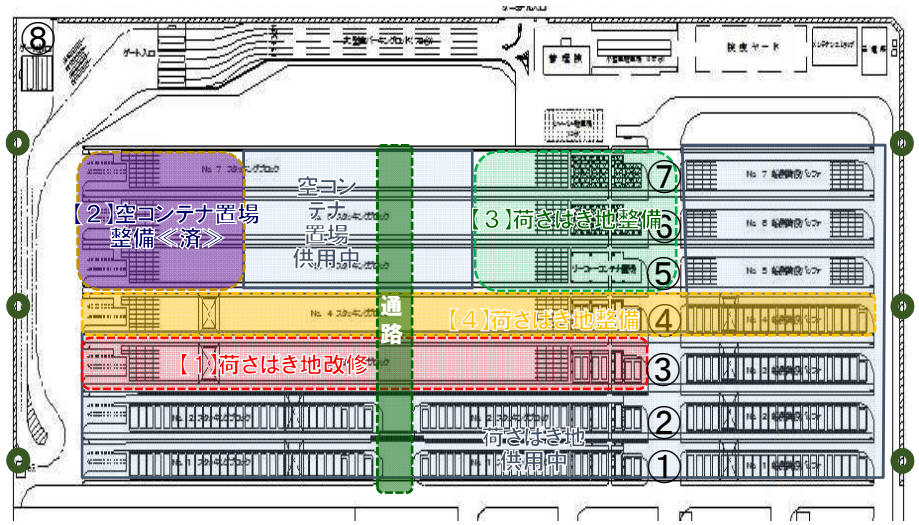
2012年以降の航路開設に伴い３年連続して前年比 約３割の増加となるなど、中国・東南アジアとの輸出入を中心に順調に取扱貨物量が増加している。



◆川崎港コンテナターミナル再整備

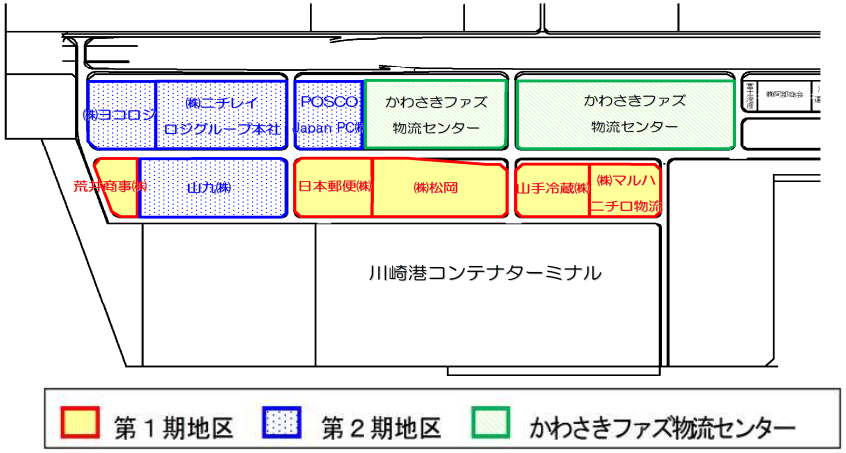
③～⑦レーンの荷さばき地の改修等

③レーンの改修にあわせてＲＭＧ２基を更新



◆東扇島背後の物流施設

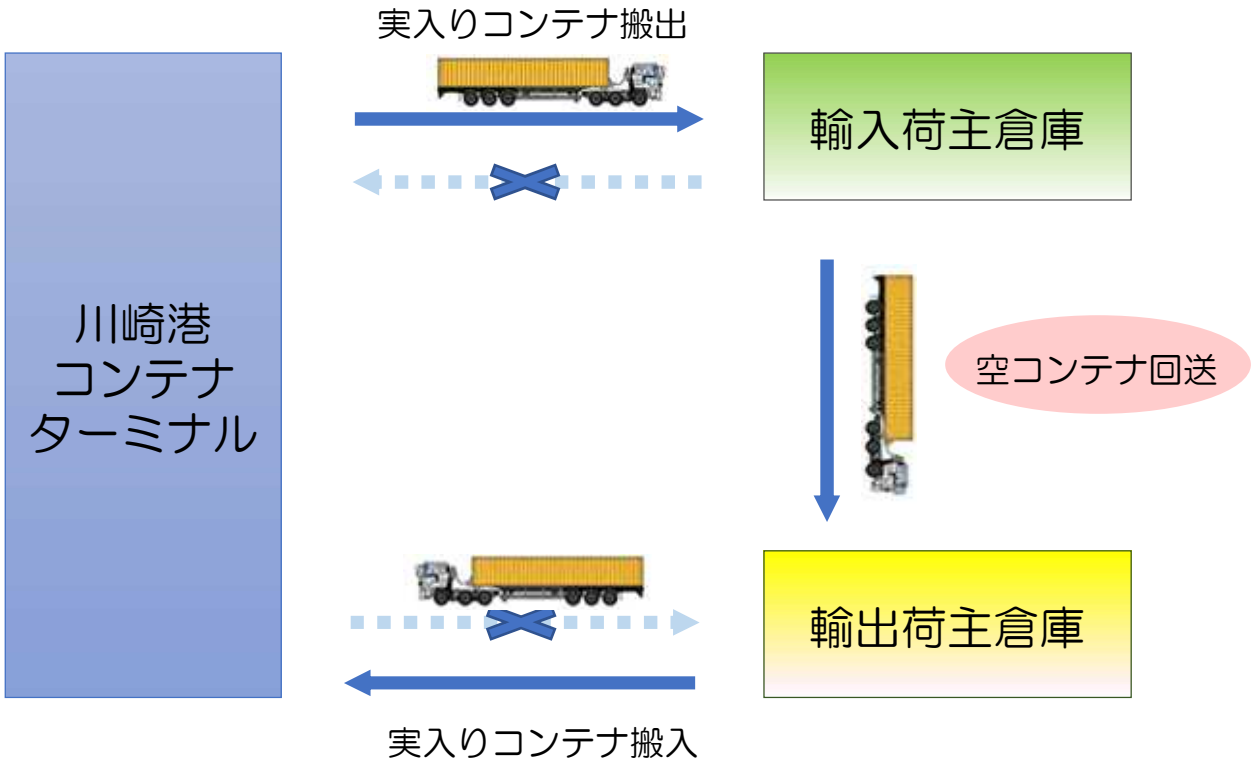
国内随一の冷凍冷蔵倉庫の集積を誇る東扇島の特徴を活かし、航路誘致等を進めている。



【コンテナ輸送効率化の取組】

平成29年度にコンテナラウンドユース支援を実施
→川崎港のコンテナターミナルゲート出入車両数が減少（事業実績：482TEU）

◆コンテナラウンドユースイメージ図



川崎港コンテナターミナルゲート前

【事業実施前】

【事業実施後】

§２　競争力強化の取組状況

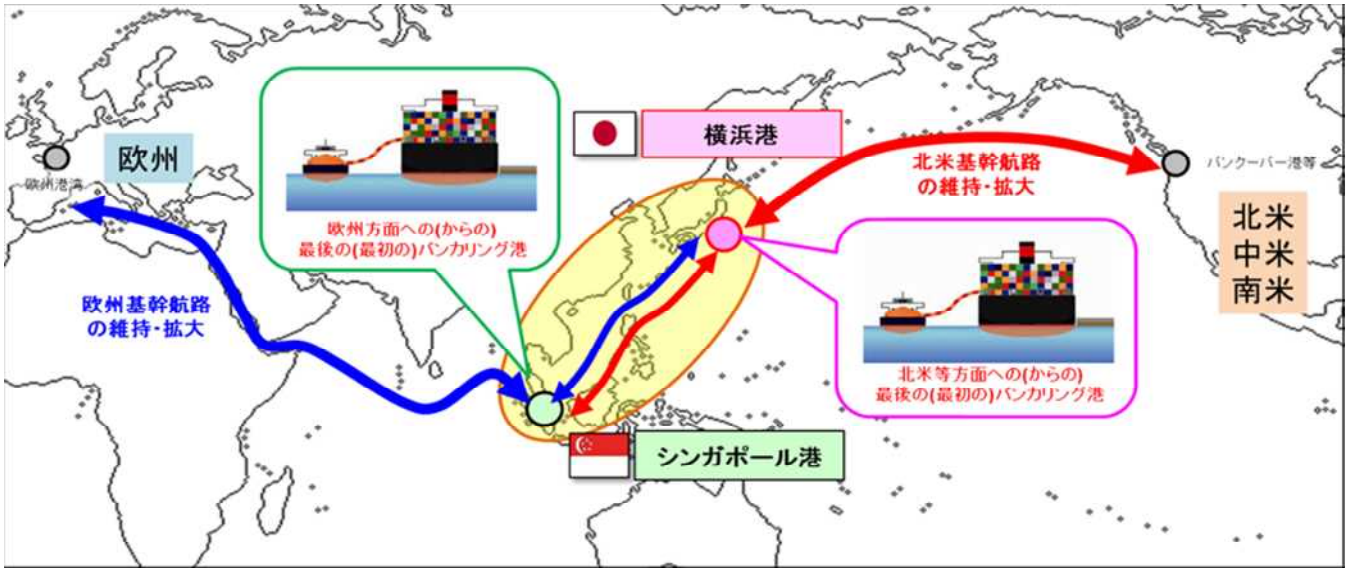
◇ LNGバンカリング拠点の形成

2020年の排出ガス規制の強化に向け、横浜港でのＬＮＧバンカリング拠点の形成に取り組む

【2018年度の取組】

- 2018年6月、住友商事㈱・上野トランステック㈱・当社の企業グループが、国土交通省より『LNGバンカリング拠点形成事業』 に採択された
  →今後、３社でJV設立、2020年度中の運航開始を目指し、LNGバンカリング船の建造に着手
- 引き続きLNGバンカリングへの取り組みを国内外に積極的に発信。

◆横浜港とシンガポール港の連携によるLNGバンカリング拠点の形成（イメージ）



◆海事産業・LNG産業の国際会議にスピーカーとして招待を受け、当社グループのプロジェクトを紹介

IAPH BAKU 2018 World Ports Conference

CWC 4TH LNG FUELS SUMMIT MARINE・ROAD・INDUSTRIAL 22 - 23 MAY 2018

sgmf　SEA LNG